

# ハクビシンとカラス

2013年8月13日

ここ数十年、都会でも農村でも「ハクビシン」と「カラス」は増え続け、人間に嫌われている。  
共に雑食で繁殖力旺盛！ 人間と敵対している。  
しかし、蓼科のトウモロコシ畑では、ハクビシンと農家は共存共栄の関係をつくり、  
カラスの害を防いでいる。

8月の連休中、長野県蓼科のトウモロコシ農家の老人と立ち話をする機会があった。  
80歳を超えていると言ったご主人は、どうみて60代前半の若さ……

毎日、畑に出て身体を動かし、自分で造った新鮮な野菜を食べているから若いのかな？……と思った。  
かなりのおしゃべりじいさんでもあり、このおしゃべりが若さの秘訣でもあるのだろう。

車で数分移動、尖り石遺跡近くの農家のトウモロコシ畑まで案内してもらった。  
1本100円で10本、分けてもらう予定であったが、1000円で13、4本くれ、畑のバラの花も頂戴した。  
当然のことだが、畑の中から良さそうなものを選んでもぎ取ってきた新鮮なトウモロコシだ。

トウモロコシ畑にハクビシンも来るし、カラスも来る。  
両方ともトウモロコシ農家にとっては天敵だ……と主人は言っていた。

主人は長年、畑でトウモロコシ栽培をしていて判ったことがあると教えてくれた。  
採ったトウモロコシはその日のうちに食べると美味しい！ 翌日になると、かなり味がおちる……  
なんでもそうだが、新鮮なものに限ると言うことだ。

又、ハクビシンが畑に来て、トウモロコシをかじり、畑をあらすが、シーズンで15本位のトウモロコシ  
を食べてしまう。

カラスは来る時は、いつも群れできて一回につき20、30本のトウモロコシの木をくちばしでつつき  
売れ物にならなくしてしまう。

ある時、ハクビシンが畑でトウモロコシを食べていると、カラスが畑に近づかなく、遠くの電線に止まっ  
ていることに気がついた。どうも、カラスにはハクビシンが天敵のようだ……

そこで、ハクビシンがきても追い出すことをせず、そのまま見守っていたら、カラスがこないことに気  
がついた。

ハクビシンによる畑の被害はわずかで、カラスによる害は甚大なものであった。  
そこで、ハクビシンをトウモロコシ畑の守護神にして、ハクビシンがきても追い出すことをしなかった。  
ハクビシンはトウモロコシ畑の中で食べずに、畑の通路部門にトウモロコシを移動させ  
そこで、食べる習性がある。

空からくるカラスにはハクビシンがトウモロコシ畑にいるのが良く見える。

ハクビシンが畑に良くくるようになってから、カラスの群れがトウモロコシ畑にくることがなくなった。  
どうも、どこかの畑に行ってしまったみたいだ。

今では、ハクビシンがトウモロコシ畑の守護神になり、カラスの害を防いでくれている。  
ハクビシンとトウモロコシ農家の共存共栄の関係が出来たのだ……と80歳の農家の主人は  
笑いながら教えてくれた。

側にいた中学生と小学生の孫は、トウモロコシ畑で生きた勉強をした。  
家に帰り、その日のうちにお湯で温めて食べたトウモロコシの味は新鮮で美味しかった。